

「長崎さるく博'06」

大東 良平

まず、私を紹介いたします。一九五四年一月一七日長崎市で生まれ、市内の高校を卒業後長崎市役所に入り、平成一六年四月より一年間「さるく博事務局勤務」。趣味はバドミントンです。

さて、「長崎さるく博」とは、どのようなものかをお話いたします。水辺の森公園に長崎県美術館が今年四月に完成、今秋には立山町に、大型施設の長崎歴史文化博物館が開館予定です。

また、来年三月には出島復元第二期工事で史跡出島和蘭商館跡には商館長の居宅兼執務室であるカピタン部屋、水門等ができ、日本有数の斜張橋である女神大橋などの大型事業が完成予定です。そして長崎の町が大きく変わる節目の年になります。

これらを平成二年開催された旅博覧会以降、低迷を続ける長崎の観光産業を飛躍させる絶好の機会と捉え、日本ではじめてのまち歩き博覧会として、二〇〇六年四月一日から十月二十九日までの七ヶ月間に「長崎さるく博」を開催しようとするものです。



長崎・料亭お座敷体験

今までの観光形態は、長崎だったら平和公園に行った後、眼鏡橋やグラバー園へ行くなど観光地の定番コースを物見遊山的に団体でまわっていました。最近の旅行形態は、町なかをゆっくり歩きながら、数人で楽しむ形態に変わってきています。そこで、「長崎さるく博」はパビリオン形式で作られた箱物博覧会ではなく、長崎の歴史や文化を体感しながら、町あるきの中で地元の人達とのふれあいを楽しんでもらうソフト型博覧会を目指しているのです。

まち歩きを楽しんでいたために、伝統工芸等の道具やコレクションを店舗に展

さらに、長崎ならではの歴史等を深く学ぶ「学さるく」の中には、昨年大好評だった料亭で卓袱料理を食べながら遊ぶ「お座敷体験」、唐人屋敷のまちを歩き、昔の唐人さん達が食べていた料理を食べるなど「食文化コース」、今年は「ターフル料理とオランダ万才を楽しむ」コースも新たに実施します。

「長崎さるく博」の特徴は、三カ年にわたるイベントで終わることなく、二〇〇七年以降も色々な催し物が継続されることで長期的な長崎の観光振興に繋がり、途絶えることのないよう検討を重ねながら民と官が一体となり、実施していくことで一過性ではなく、継続されるイベントとなります。

もちろん三種類の「さるく」（遊さるく・通さるく・学さるく）を実施しながら、参加する市民の輪をひろげ、市内の至る所は、例えばさるくコースとなるため町の人々も観光客を迎えようと家の前を掃除したり、花を飾ったりといった、しぜんにもてなしの気持ちが地域に根づくことを期待しています。

それから、市民主体のイベントなので、今年七月からのプレイベントに一度参加していただけたら、「長崎さるく博」のこともっと理解できるかもしれません。より関わりたい方は、イベントの企画、交渉やプログラムの運営などをする市民プロデューサーや、まち歩き「通さるく」で案内するさるくガイド、その時に事故がないよう車等に気を配るさるくサポーターとして、参加されたらいかがでしょうか。

三五〇人を目指しているガイドの数は、五月末現在、約二〇〇人。まだまだ足りませんので、ぜひ応募してみてください。さるく博事務局 ☎〇九五―八三二―二〇三六に連絡し、登録した後に用意した研修を受ければ、ガイドやサポーターは実際に活動ができます。

なんとと言っても、まず参加してみないと「長崎さるく博」の良さばかりに思いません。ぜひ、みなさんも参加してみてください。よかった楽しかったというの、请け合いです。

（今年の「通さるく」「学さるく」「長崎体験」の申し込みは、☎〇九五―八三二―二〇三六）

「長崎さるく博」の全部がわかる公式ガイドブックが十月初旬に完成します。みなさん楽しみに待っていてください。

示し、観てもらおう「さるく見聞館」や、まち歩きの途中で休憩とコースの情報を得ることができる「さるく茶屋」を設置し、地域の情報やコース地図も自由に手に取って戴く。更に地元の人達とふれあうことができ「さるくホットステーション」を設置。そして「長崎さるく博」の情報提供の場として「さるくガイドステーション」も市内に設置することになっています。

「長崎さるく博」の期間中に開催される二十の記念イベントが予定されていますが、その他にもグラバー園内の、オルト邸の屋内では洋食、前庭ではビア・ガーデン、園内では音楽祭や演劇が行われます。出島内でも芝居や大宴会を予定しています。もちろん、グラバー園には、グラバーさんやレトロ調の貴婦人がいたり、出島では、カピタンや長崎奉行、門番等、往時の服装をした者が観光客と一緒に記念写真を撮ることが出来ます。また、長崎港を見下ろす稲佐山でも、夏場ビア・ガーデンや夜市が企画されています。

「長崎さるく博」は、二〇〇六年の本開催に向けてホップ・ステップ・ジャンプの三段階に分け、昨年は、ホップの段階を終えました。そして今年、ステップの年に当たることから、企画内容もさらに充実し、参加者がマップを見ながら自由気ままに散策する「長崎遊さるく」や、さるくガイドが案内する「長崎通さるく」は、南山手・丸山・寺町・中島川及び桜馬場・新大工町方面のまち歩きコースに加え、東山手・二十六聖人・出島ワーフ・鳴滝・稲佐・唐人屋敷・東長崎・浦上・外海など一五コースで実施します。

このまち歩き一五コース（ガイド付の「通さるく」の面白いところは、地元の人しか知らない隠れた事柄を、歩きながら二時間かけてガイドさんが丁寧に説明して下さるところにあります。さるくコースのほかに太極拳や胡弓・カステラ・名刺・包丁づくりを体験する「長崎体験」も併せて実施します。

風信

○六月一日と言えば先づ「衣更」、長崎の人達は「小屋入り」と言い、今年度の「長崎クンチ」は此の日より始まると言う。此の日は踊町・年番町は早朝より幕を張り、遠くより「シャギリの音」がきこえ、「確かに、のどかな長崎らしい一日」であった。

○先月（五月）二十日の夕方、「長崎中国総領事館開設二十周年記念式典」に招かれた。今回は私も、やや緊張して出かけたが、会が進むにつれ次第に和やかさが増し、さすが長崎と中国人達との関係は歴史的な親しみがある事を実感して帰った。

○最近は中学生の修学旅行生が十二、三人のグループで色々と設問を用意して来訪する事が多くなった。質問第一は長崎方言の事。第二は出島の事。第三は「チャンポンは何処が一番うまいですか」という。事務局上田女史この第三問にはいつも笑いながらも困っておられるようである。

○通勤時間外の電車・バスに乗ると其の乗客の大半は私をふくめ七十才台の老人が多い。さて、これから先の年金問題。出生率の低下と何に彼らにつけて此等に考えさせられる物が多い昨今で、少しさびしい。

○今月もすばらしい本を二冊いただいた。

一つは県立図書館の本馬貞夫先生が中心になられて編纂された「長崎奉行所 分類雑載」で、その内容は幕末の長崎奉行所における各役職の仕事内容を詳記したもので、先に出版された「長崎代官手帳」、「唐方諸向仕役留」と共に座右におかれるとより一層活用できる一級資料である。

第二は郷土出身の喜多迅鷹氏が長崎新聞社より出刷された「スケッチふるさと長崎」である。喜多さんは知る人も多く紹介する必要もないが、今回のスケッチ集を見ると、いつの間にか夢の長崎に引き込まれ、次のページをめくってしまふ。(二、五〇〇円)

